

宮城県考古学会中世部会例会公開のお知らせ

中世考古学部会事務局

- 1 期日 7月12日(土) 14時00分～16時45分
- 2 会場 東北歴史博物館 (部屋は受付でお聞きください)
- 3 内容 ①「栗原市花山地区の中世城館」:佐藤信行
②「最近の関東における中近世城館跡研究について」:竹井英文

4 申し込み

メールで下記までお申し込みください。

中世考古学部会事務局アドレス kohko.miyagi.tyusei@gmail.com

7月5日までにお申し込みください。

※事務局の都合でメールのみの受付となりますことをお詫びいたします。

5 発表者の紹介

【佐藤信行氏】

在野の考古学研究者 弥生時代を研究。近年は中世城館及び板碑の研究を進める。

「宮城県二迫川流域の中世城館」『宮城考古学 第16号』2014ほか

【竹井英文氏】(東北学院大学 HP より)

東北学院大学専任講師 (日本中世史・近世史) 2014.4～

・研究テーマ

日本中世史・近世史専攻。特に東国(関東・奥羽)を中心とした戦国・織豊期の政治史・社会史・城郭史を主要な研究課題としている。

・研究トピック

「天下統一」と東国社会

「中世から近世へと移行する時代、中近世移行期は、信長・秀吉により「天下統一」が達成され、幕藩体制の確立へと至る、日本史上の一大画期といえます。しかし、「天下統一」はあくまで結果であって、必然的なものだったわけではありません。なぜ統一しなければならなかったのか、それは地域社会に何をもたらしたのか。こうした課題について、東国をフィールドに研究しています。」

・最近の著作

- 1.『織豊政権と東国社会—「惣無事令」論を越えて—』吉川弘文館 2012年
- 2.「小田原合戦後の八王子城—中近世断絶論を越えて—」『八王子市史研究』第2号 2012年
- 3.「豊臣政権と武蔵府中—府中御殿の再検討—」『府中市郷土の森博物館紀要』第26号 2013年